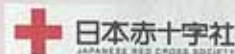


広島県赤十字有功会

— 会報 (第2号) —



新年にあたって

広島県赤十字有功会

会長 宇田 誠

新年、明けましておめでとうございます。

昨年は、国内外で紛争や災害が相次ぎ、新聞やテレビニュースを見るたびに暗い気持ちになりましたが、国内の景気回復の兆しも見える中、今年こそはおだやかな年となってほしいものです。

本会は、一昨年九月に結成されて以来、世界の人道ニーズに対応する赤十字を物心両面から支える組織として活動しています。会員数も設立当初の百二十七個人・法人から昨年末までに新たな会員二十八個人・法人を迎え、百五十五個人・法人となりました。これもひとえに会員の皆様の、赤十字運動並びに本会の主旨、活動へのご理解の賜物と、厚く感謝いたしております。引き続き、会員の皆様の呼びかけによって、この支援の輪が一層広がる事を期待したいと思います。

同時に、私たち有功会が赤十字に期待するものは、ひとたび紛争や災害が発生したならば、迅速な支援活動を行うとともに、被災者の皆様の一日も早い復興に寄与するなど、その人道的使命の達成ですが、平和時においても青少年への人道精神の普及など非常に大きいものがあります。青少年がかかわる事件や事故が頻発する最近の社会情勢を見ますと、この思いをさらに強くする次第です。



本年は、干支の最後の年である「亥年」です。

古来猪の肉は、万病を防ぐといわれ「無病息災」の象徴でもあるそうです。今年一年、会員の皆様のご健勝を祈念いたしますとともに、赤十字とこれを支援する有功会が益々発展し、世界の人々に平和が訪れることを願いまして、新年のご挨拶いたします。

広島県赤十字有功会は、

広島県内の日本赤十字社有功章受章者有志で構成され赤十字の有力な支援団体として

赤十字思想の普及と事業の進展を図り世界の平和と人類の福祉に寄与することを目的としています。

広島県赤十字有功会は、2005（平成17）年9月17日に設立いたしました。

平成十八年度事業実施経過報告

一 総会の開催

● 役員会の開催

六月二十六日(月)

於 広島市中区

出席者 七名

● 総会の開催

七月十一日(火)

於 広島市中区

出席者 五十六名

講演

(総会終了後)

「赤十字と

国際人道支援活動」

熊本赤十字病院

国際医療救援部

副部長 宮田 昭医師

懇親交流会

(総会講演会終了後)

出席者 二十七名



平成18年度 広島県赤十字有功会総会



平成18年度 広島県赤十字有功会総会

二 全国有功会組織との連携等

日赤紺綬・有功会会長協議会総会出席

十月二日(月)～三日(火)

於 北海道札幌市中央区

出席者 古川 浩副会長

支部より中川日出男事務局長出席

三 仲間づくり運動の推進

有功章受章者へ入会案内送付

銀色有功章 二百七十三件

金色有功章 十三件

感謝状 六件

四 赤十字事業に関する資料の提供

● 広島県赤十字有功会会報第二号発行

● 赤十字新聞の発送

● インターネットを通じた広報

平成十八年度日赤紺綬・有功会会長協議会総会

日時

十月二日(月) 十四時から

十月三日(火) 十三時まで

場所

「京王プラザホテル札幌」

札幌市中央区北

日程

◆ 十月二日(月)

総会

○ 第一部

・ 開会

・ 北海道支部有功会連合会

・ 会長挨拶

・ 日赤紺綬・有功会

・ 会長協議会会長挨拶

・ 日本赤十字社社長祝辞

・ 日本赤十字社北海道支部

・ 支部長祝辞

・ 議長選出

・ 議事

・ 閉会

○ 第二部

・ 講演会

・ 演題 「アイヌ文化の中の南と北」

・ 講師 アイヌ文化振興・研究推進機構理事長

・ 谷本 一之先生

○ 第三部

・ 公演

・ アイヌ民族博物館伝承課八名によるアイヌ古式舞踊

・ 懇親会

◆ 十月三日(火)

視察

視察先：北海道開拓の村、サッポロファクトリー



平成18年度 日赤紺綬・有功会会長協議会総会



会員数(平成十八年十二月末日現在)

個人 五十八名

法人 九十七社

計 百五十五会員

平成十八年度新規会員紹介

ご入会いただき、ありがとうございます。

個人(七名)

後藤 幸生

森下 陸雄

樋口 謹二

二宮 為留

酒井 恵子

吉田 道子

今中 亘

法人(二十一社)

株式会社アキノテクス

有限会社寿タクシー

唐川木材工業株式会社

日政建設株式会社

大鉄産業株式会社広島支店

キタタ工業有限公司

広島日野自動車株式会社

株式会社シーエムエス

株式会社 測田楽器店

株式会社 共立

株式会社 ジャパン・エム・オート

村田自動車工業株式会社

有限会社喜楽弁当

新興建設株式会社

木江ターミナル株式会社木江事業所

三鬼化成株式会社

株式会社ヒロクラ

広島食肉市場株式会社

井上商店

株式会社富士電子産業

広島デルタライオンズクラブ

(豊田郡大崎上島町)

(広島市西区)

(広島市南区)

(広島市西区)

(広島市南区)

(広島市中区)

(広島市南区)

(広島市中区)

(広島市南区)

(広島市中区)

(敬称略・入会順)

広島県支部だより

青少年赤十字活動の紹介

青少年赤十字は、世界の平和と人類の福祉に貢献できる青少年の育成を目的に、学校に組織され、「健康安全」「奉仕」「国際理解・親善」を実践目標として、体験を重視した活動を展開しています。

現在、県内の青少年赤十字加盟校(保育園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校)は、123団体、約12,000人のメンバーが活躍しています。

友好の水プロジェクト

学校に水を届けよう

廿日市市立阿品台中学校

二年 河野真澄海

皆さんも記憶に新しいと思いますが、この8月、広島県での給水トンネル事故が大きなニュースとなって、全国に報じられました。

事故現場は安芸区だったようですが、その影響はあまりにも大きく、真夏だというのに、呉市の一部と江田島市全域が、断水という事態に陥りました。

こんなに暑い中、飲み水がない、風呂にも入れないし、トイレも使えない、学校も、もうすぐ始まるのに……大変だろうなあ……どうするんだろう。

いろいろなきことが、私の頭をよぎりました。

そんな中で、「何かできることはないだろうか」という思いがあちこちの青少年赤十字メンバーから始め、先生方を通して「断水地域の学校に水を送ろう」という企画が始まりました。

これは、9月1日の始業式を迎える断水地域の小学校・中学校・高等学校、約二十校に対して、生徒1人につき2リ

ットルのペットボトル1本を送り、その後県内の加盟校に募金活動の協力をお願いして、総費用をまかなおうというものでした。

これが、「友好の水プロジェクト」です。私がこのプロジェクトに、深く関わるきっかけとなったのは、夏の青少年赤十字リーダーシップ・トレーニングセンターに参加したことからでした。私は、その研修の中で、私自身の今後の活動計画として「災害救援の備え」という計画を立てました。

理由は、私の住む廿日市市は、過去台風や豪雨による災害に見舞われ、私自身も、何度かその復旧活動を体験していたからです。

断水事故が起こった時、担任の先生が「河野さん、あなたの災害救援の案を膨らましてみませんか？」と声をかけて下さいました。これが、私自身の、「友好の水プロジェクト」のそもそものはじまりとなったのです。

9月1日、始業式の日の午後。私は、水のプレゼンターとして、二葉中学校の山根裕子さんと、先生方、日赤の方々とともに、呉市の吉浦中学校を訪問しました。

その際、校長先生をはじめとする全員の先生、生徒会執行部の皆さんの、厚い歓迎を受けました。

校長先生は、「こうして、同じ赤十字の仲間から助けてもらうのは、本当に嬉しいものです」と、涙なが



らにおっしゃいました。この短い期間の経験を通して、私ほとても大切なことを学びました。

私は、プレゼンターを務めたとき、ずっと「県の代表」というプレッシャーが重くのしかかっていたのですが、被災地の学校を訪問するのだから、なるべく笑顔を見せたいように、私なりに心掛けました。

ところが、その私の心配をよそに、私を待っていたものは、たくさんの方々の笑顔、それもとびつき嬉しそうなお笑顔を待っていた。私の書いた励ましのメッセージも被災地の20の学校に配布され、個人的にお礼のお手紙も頂きました。校長先生の涙や、たくさんの方々の笑顔とともに、こうした体験は、私に、ヴォランティアサービスの大切さと意義深さを感じさせてくれたのです。

このプロジェクトは、生徒と先生の気持ち、ヴォランティア・サービスを通して一体となった活動でした。

私たちの手に負えないと思えることでも、青少年赤十字というネットワークを活用することで、活動の可能性がずっと広がることを知りました。

夏のトレーニングセンター、そのワークショップの中で、私がかまとめた活動計画が、まさかこのような形で実を結ぶとは思ってもみませんでした。

中学生の声を、気持ちを本気で受け止めようとして下さる先生がいて下さったこと。

そして、募金活動に協力してくれた、県内のたくさんの方々の青少年赤十字の仲間たちの存在。

本当に、沢山の支援によって支えられ、形となったプロジェクトでもありました。

〈青少年赤十字県大会で発表〉

ボランティア・スピリット賞全国賞に輝く! ~「友好の水プロジェクト」の河野真澄海さん~

12月24日(日)、有楽町朝日ホール(東京都千代田区有楽町)で、第10回ボランティア・スピリット賞 全国表彰式が開催されました。この席で、広島県青少年赤十字メンバーの廿日市市立阿品台中学校(山下芳樹校長)2年 河野真澄海さんが、みごと全国賞を受賞しました。

今回は、全国から約4,000ものさまざまなボランティア活動の応募があり、全国賞に選ばれたのは河野さんを含めてわずか10名。表彰式でのインタビューに河野さんは、青少年赤十字の仲間の強い思いと、ネットワークが今回の活動の原動力になったと振り返ります。

ボランティア・スピリット賞は日本赤十字社も後援しています。この賞についての詳しい情報は、同ホームページ(<http://www.vspirit.jp/>)を併せてご覧ください。



平成18年

全国赤十字大会開催される

平成18年5月25日、明治神宮会館（東京都渋谷区）で日本赤十字社名誉総裁皇后陛下、同名誉副総裁秋篠宮妃殿下、常陸宮妃殿下並びに高円宮妃殿下をお迎えして、「平成18年全国赤十字大会」が開催され、広島県からは本会古川浩副会長をはじめ、有功章受章者や奉仕団委員長ら35人が出席しました。

大会には全国から約2千人の関係者が参加。名誉総裁皇后陛下から、赤十字事業の推進に顕著な功績のあった方々の代表13人に有功章が授与されるとともに、関係者に対し、ねぎらいと励ましのお言葉をいただきました。

また、大会終了後には、参会者を

代表し、平成17年に新たに結成した広島県赤十字有功会から古川浩副会長が他の社業功労者らとともに、名誉総裁皇后陛下、名誉副総裁各妃殿下をお見送りしました。お見送りに際して、皇太后陛下、皇后陛下、各妃殿下、下方は、古川副会長に親しくお声をかけられました。



日本赤十字社感謝状並びに有功章贈呈式を開催

平成18年度広島県赤十字有功会総会の席上、贈呈式を開催しました。

これらの表彰は、日本赤十字社の事業資金のため、多額の資金を寄せられた方々に対し、日本赤十字社から贈られるものです。

当日は、該当する79の個人・法人うち22人・法人が出席し、有岡宏副支部長（副知事）から、それぞれ感謝状、金色有功章、銀色有功章が贈られました。

受章（賞）者数の内訳は次のとおりです。

【日本赤十字社感謝状】 8件（個人8件）

【金色有功章】 3件（個人1件、法人2件）

【銀色有功章】 68件（個人4件、法人64件）



AED（自動体外式除細動器）とは？

心臓の筋肉が不規則に痙攣する「心室細動」によって、全身に正常に血液を送ることが出来なくなつた心臓に、一時的な電気ショック（除細動）を与えて元の正常な心拍に戻すための機械です。

人間の脳は、心室細動などによる心停止によって血液循環がなくなると、わずか4分で脳細胞に致命的な障害を起こすといわれています。そのため、迅速に119番通報するとともに、人工呼吸、心臓マッサージ（心肺蘇生法）と、このAEDを用いた除細動、迅速な救急隊員への引継ぎ（二次救命処置）の連鎖によって、尊い命を救うことが出来るのです。

AEDは電源を入れると、あとは機械の指示にしたがって操作し、除細動が必要な状態の患者に対してのみ電気ショックを施すようつくられているので、平成十六年七月から医療従事者以外の一般市民でも使用することができるようになりました。



日本赤十字社広島県支部でも、平成十七年度からこのAEDを県内の赤十字施設、地区区分などの窓口に計二五台（平成十八年度末見込）設置するとともに、取扱いの講習会も行っています。

AEDの使い方

1 電源を入れる



2 電極パッドを傷病者の胸部に貼る（ケーブルを本体に接続する）



3 AEDが自動的に傷病者の心電図を解析する（解析ボタンを押すが必要な機種もある）



4 AEDから除細動の指示が出たら、除細動ボタンを押す



平成19年1月発行

発行者 広島県赤十字有功会

発行所 広島県広島市中区千田町2-5-64

730-0052 日本赤十字社広島県支部内

電話 (082) 241-8811

<http://www.hiroshima.jrc.or.jp/yukokaitop.htm>

【寄稿のお願い】

広島県赤十字有功会会報は、会員の皆様と共につくる会報をめざしています。会員の皆様からのご寄稿をお願いいたします。

俳句、短歌、詩、エッセー、旅行記、写真、絵などなど、ぜひ、お寄せください。また、ご意見、ご要望などお聞かせください。